

## 排泄援助の工夫いろいろ

三郷の小さなつどい 2 / 25 (土)

地域包括支援センターみさと南 参加者 12 名

自己紹介の後、大場先生から在宅で尊厳死を望まれた方の看取りの実例報告がありました。グループホームで、家族も交えた静かな看取りだったようです。

話し合いのなかでは T さんから、96 歳の義母を介護しているが、便が一度でできらず困ることと、消臭の良い方法がないかと質問がありました。それをきっかけに、排泄で困っていることを出し合い、H さんはご主人が朝、便器に長く腰掛けていてマットを濡らすのが困る。M さんは何にでも便をしてしまい、その便を隣の部屋に投げたりするという話もありました。消臭については、重曹スプレーやアロマオイルを加湿器に入れるという工夫をされていました。また、手に臭いがつかないように使い捨ての手袋を 3 枚ぐらい重ねると良いともアドバイスがありました。

大場先生からは、「トイレの場所が分らなくなると混乱する場合や尿意や便意の意味が分らず不快になり、おかしい行動をとることもある。また、おむつをしてしまうと尿意、便意が感じられなくなるので、なるべくならトイレでの排泄援助ができると良いと思うが、夜中、何回もいくのは大変なので、おむつも仕方がな

---

い。夜間頻尿という場合は薬がある」というお話がありました。

Mさんは徘徊を何回も経験していると話し、市の福祉相談室の方で徘徊の人を早く見つけ出すためのネットワーク作りを進めていると報告がありました。

毎朝必ず「家に帰る」といって出かけるご主人を介護している奥様は、「妻の自分が分からないのかと心細くなる」とお話しになった。